



別添

消安全第303号
令和2年9月7日

国土交通省住宅局建築指導課長 殿

消費者庁消費者安全課長



窓やベランダからの子どもの転落事故に関する注意喚起について（周知依頼）

平素より、消費者行政の推進に御理解・御協力をいただきありがとうございます。

消費者庁では、別添のとおり注意喚起「窓やベランダからの子どもの転落事故にご注意ください！一網戸に補助錠を付ける、ベランダに台になる物を置かない等の対策を一」を公表し、子どもの保護者へのアドバイスを発信いたしました。

窓やベランダからの子どもの転落は、夏から秋にかけて、3～4歳の子どもの事故が多く発生しており、2階からの転落でも入院が必要な中等症と診断される例が多く見られます。

つきましては、窓やベランダからの子どもの転落事故を防止するために、貴課の関係団体に対し周知をお願いします。

<本件問合せ先>

消費者庁消費者安全課 朝倉、石井、睦門

TEL : 03-3507-9137 (直通)

令和2年9月4日

窓やベランダからの子どもの転落事故に御注意ください！
一網戸に補助錠を付ける、ベランダに台になる物を置かないなどの対策をー

子どもが住居などの窓やベランダから転落し死亡する事故が多く発生しています。厚生労働省「人口動態調査」、東京消防庁「救急搬送データ」及び医療機関ネットワーク事業の事故情報を消費者庁で分析したところ、

- ◆ **窓を開けたり、ベランダに出る機会が増えたりする夏頃から転落事故が増加**
- ◆ **子どもの中でも3～4歳の転落事故が最も多い**
- ◆ **2階からの転落でも入院が必要な中等症と診断されている事例が多い**
- ◆ **窓が開いた部屋で子どもだけで遊んでいて発生する事例が多い**

ことが分かりましたので、注意が必要です。

住居などの窓やベランダから子どもが転落する事故を防止するためのポイント

窓やベランダ周辺環境づくり

- ① **窓やベランダの手すり付近に足場になるようなものを置かないようにしましょう。特に、エアコンの室外機の置き場所は工夫しましょう。**
- ② **窓、網戸、ベランダの手すり等に劣化がないかを定期的に点検しましょう。**
- ③ **窓を閉めていても、子どもが勝手に窓を開けないよう、窓や網戸には、子どもの手の届かない位置に補助錠を付けましょう。換気をする際も同様です。**

子どもの見守り・子どもの教育

- ① **子どもだけを家に残して外出しないようにしましょう。**
- ② **窓を開けた部屋やベランダでは子どもだけで遊ばせないようにしましょう。**
- ③ **窓枠や出窓に座って遊んだり、窓や網戸に寄りかかったりさせないようにしましょう。**

子どもから一瞬たりとも目を離さないことはできず、限界があります。子どもの見守りと合わせて転落事故が起こらない環境づくりを行いましょう！

1. データで見る事故情報

今回、厚生労働省「人口動態調査」¹、東京消防庁「救急搬送データ」²及び医療機関ネットワーク事業³の事故情報を用いて消費者庁で分析を行いました。各データの情報は以下のとおりです。

表 1 使用した情報

情報元	年齢範囲	収集条件		件数	収集期間
厚生労働省 「人口動態調査」	子ども(9歳以下)	建物からの転落	死亡 事故	37件	平成26年～ 平成30年
東京消防庁 「救急搬送データ」	子ども(5歳以下)	住宅などの窓やベランダ からの転落 ⁴	救急搬 送人員	70件	平成27年～ 令和元年
医療機関 ネットワーク事業	子ども(14歳以下)	住宅など2階以上からの 転落	事故 情報	30件	平成27年7月～ 令和2年6月

(1) 転落事故の発生時期について

① 厚生労働省「人口動態調査」死亡事故

厚生労働省「人口動態調査」における平成26年から平成30年までの9歳以下の子どもの建物からの転落による死亡事故のうち、発生時期不明の1件を除く36件中、「7～8月」の13件が最も多く、次に「5～6月」の9件で、夏に多く発生していることが分かりました（図1）。

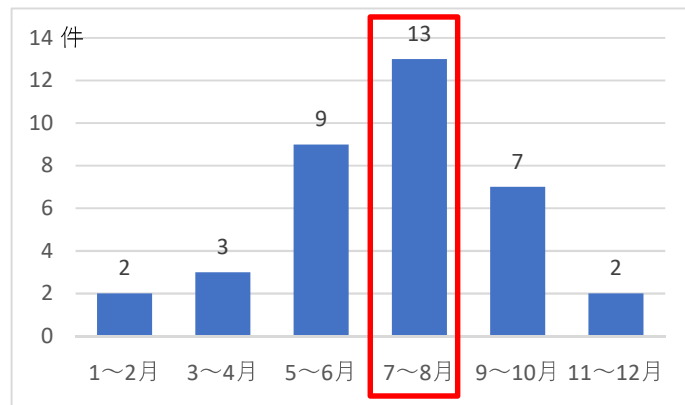


図 1 時期別の死亡件数 (n=36)

(人口動態調査)

1 厚生労働省「人口動態調査」平成26年から平成30年までの情報を基に消費者庁が作成（図1、4、7）。調査票情報を利用した独自集計をしており、公表数値とは一致しない場合があります。

2 令和元年（平成31年を含みます。）中の数値は暫定値です。東京消防庁「救急搬送データ」平成27年から令和元年までの情報を基に消費者庁が作成（図2、5、8）。1階からの転落を除き、天窗やガラス屋根からの転落を含みます。

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/topics/201603/veranda.html>

3 「医療機関ネットワーク事業」は、参画する医療機関（令和2年8月末時点で27機関）から事故情報を収集し、再発防止にいかすことを目的とした、消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業です。件数は平成27年7月から令和2年6月までに発生した事故を本注意喚起のために特別に精査したものです（図3、6、9、10）。

4 東京消防庁では「墜落」が使用されていますが、本資料では「転落」と表記しています。

② 東京消防庁「救急搬送データ」救急搬送人員

子ども（5歳以下）が住居などの窓やベランダから転落し、救急搬送される事故のうち、時期別では、「9月～10月」が最も多く21件、次に「5月～6月」が19件と、初夏と秋頃に多いことが分かります（図2）。

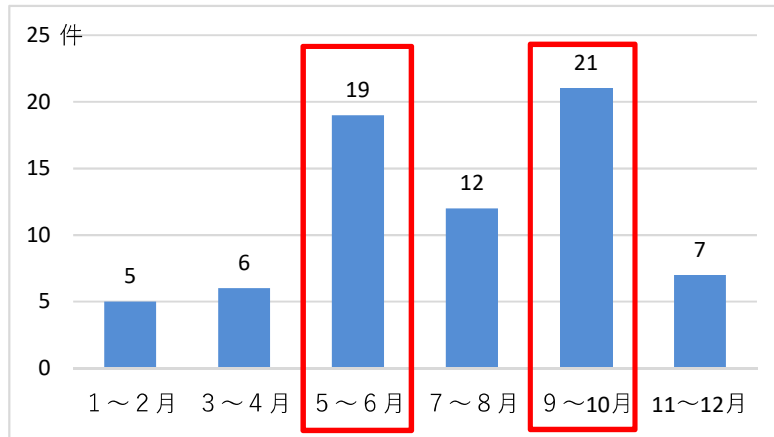


図2 時期別の救急搬送件数 (n=70)

(東京消防庁「救急搬送データ」)

③ 医療機関ネットワーク事業 事故情報

子ども（14歳以下）が住居などの2階以上の窓やベランダ等から転落する事故のうち、時期別では、「1～2月」は0件でしたが、暖かくなる3月から転落事故が増加していました（図3）。

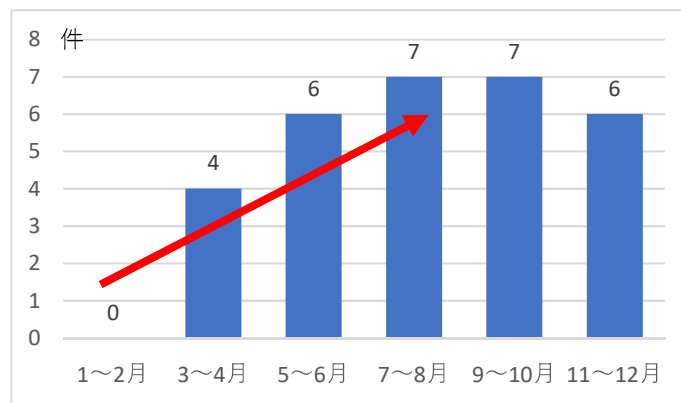


図3 時期別の事故発生件数 (n=30)

(医療機関ネットワーク事業)

以上のことから、転落事故は5月頃から発生が増加しており、救急搬送は「9～10月」が最も多く、死亡に至った事故は「7～8月」が最も多いことが分かりました。

(2) 転落事故の年齢別・場所別比較

① 厚生労働省「人口動態調査」死亡事故

年齢別に見ると、1～4歳が23件（62%）、5～9歳が14件（38%）で、特に3歳が多いことが分かります（図4）。また、全体ではベランダからの転落が15件、窓からの転落が7件、屋上が2件、不明・その他が13件でした。

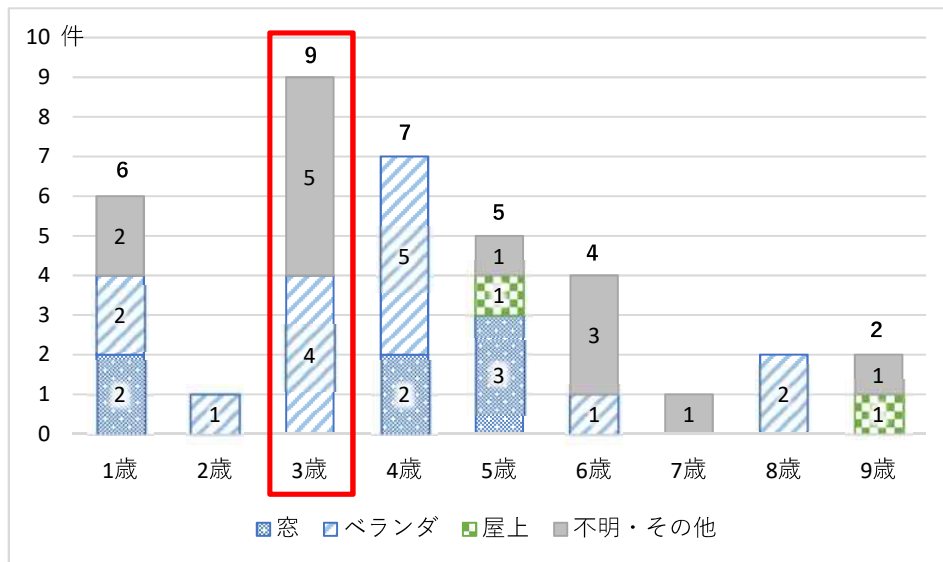


図4 年齢別の建物からの転落による死亡事故件数 (n=37)
(人口動態調査)

② 東京消防庁「救急搬送データ」救急搬送人員

窓やベランダから転落し、救急搬送された件数を年齢別に見ると、4歳での事故が多く、全体ではベランダの26件より窓からの転落事故が43件と1.7倍多いことが分かります（図5）。

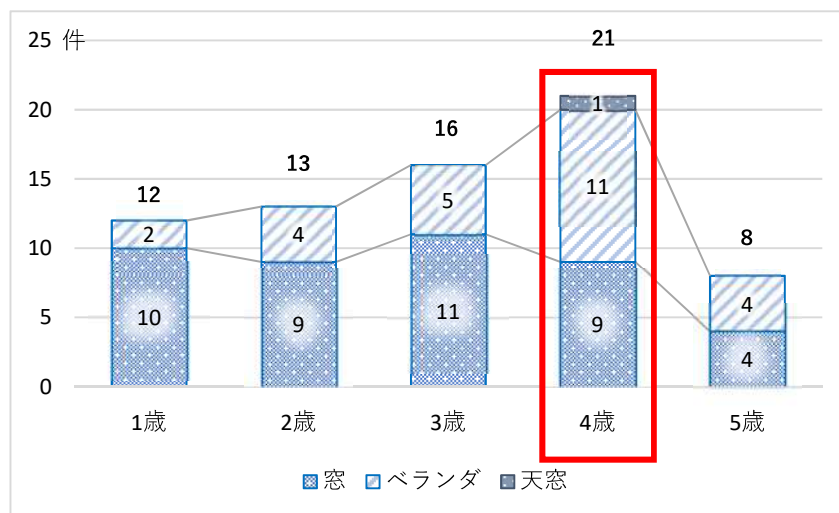


図5 窓やベランダからの転落事故における、年齢別の救急搬送件数 (n=70)
(東京消防庁「救急搬送データ」)

